

PDCA サイクルシート(国語編)

学部学年 (高等部1年)

Plan①

学習指導要領	
<p>【対象児童生徒の現在の実態】 (小学部 2段階)</p> <p>○姿勢や記具の持ち方を正しくし、写し書きやなぞり書きをする。(△)</p> <p>○絵本などを見て、好きな場面を伝えたり(○)、易しい読み物などを音読する。(△)</p> <p>○体験したことや、経験したことを思い浮かべ、伝えたいことを考えたりや自分の気持ちを考える。(○)</p> <p>○身近な人の話を聞くことや、絵本の読み聞かせなどを通して、出来事など話の大体を聞き取る。(○)</p> <p style="text-align: right;">→【目指す段階】 (小学部 3段階)</p>	
S スケール(学習到達度チェックリスト)	
<p>【現在の実態】</p> <p>○聞くこと スコア ()</p> <p>○話すこと スコア ()</p> <p>○書くこと スコア ()</p> <p>○読むこと スコア ()</p>	<p>【目指すスコア】</p> <p>○聞くこと スコア ()</p> <p>○話すこと スコア ()</p> <p>○書くこと スコア ()</p> <p>○読むこと スコア ()</p>
学びの履歴	
<p>これまでの国語の学習では、「書くこと」については筆記用具を使い、自分の名前を書いたり、なぞり書きをしたりしているが、上肢の不安定さがあり、上手に書きたいという気持ちもあり、教師と一緒に書くことを好む傾向がある。</p> <p>「読むこと」については、平仮名や片仮名を読むことができ、平仮名・片仮名カードの並べ替えもできる。斜視の見えづらさのためか一文字ずつ読み、小さな文字は読みづらい様子が見られる。目で確認して読むことよりも、耳で内容を確認し、暗記しようとする。「書くこと・読むこと」には本人の苦手意識がある。</p> <p>「話すこと」では、教師など周りとやり取りができ、だれがどこで何をしたというようなことを、順序立てて話したり、自分の気持ちや感想を加えて話したりすることができる。緊張する場面や、気持ちが不安定な時は早口になり、聞き取りにくい口調になることを本人も自覚しており、注意して話そうとしている。ある程度の語彙力がある。</p> <p>「聞くこと」については、相手の話をよく聞くことができる。話を聞いて話の大まかな流れをつかみ、過去の出来事を振り返り、現在と比べたり、これからの予定などを覚えていて、期待感を持ったりすることができる。</p>	

・学習指導要領の算数(数学)の各内容の指導事項を参考に、対象児童生徒の達成状況を「◎=よくできる、○=できる、△=むずかしい」でチェック。細かく実態把握を行う。
・目指す段階も記入する。

・必要に応じて、S スケールで実態把握。
・学習指導要領で実態把握が可能な場合は未記入でOK。

Plan②

対象児童生徒の国語の目標

- 【知識及び技能】出来事や経験したことを伝え合う体験を通して、いろいろな語句や文の表現に触れることができる。
- 【思考力・判断力・表現力等】相手の話に関心を持ち、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすることができる。
- 【学びに向かう力、人間性等】言葉が持つ良さを感じるとともに、会話に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。

Plan③

対象児童生徒の本時の目標

- 出来事や経験したことを伝え合う経験を通して、発声や声の大きさに気を付けるとともに、丁寧な言葉を使うことができる。(知識及び技能)
- 挨拶や電話の受け答えなど決まった言い方を使うとともに、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすることができる。(思考力・判断力・表現力)

Plan④→Check⑥

本時の対象児童生徒の評価

◎…よくできた ○…できた △…できなかった

・【知識・技能】発声や声の大きさに気を付けるとともに、丁寧な言葉を使うことができる。	○
・【思考・判断・表現】電話の受け答えなど決まった言い方を使うとともに、自分の思いや考えを相手に伝えたり、相手の思いや考えを受け止めたりすることができる。	◎
・【主体的に学習に取り組む態度】電話を使って、相手に気持ちを伝えようとするすることができる。	◎

Do⑤

○ 単元(題材)名 「電話で話そう」

時間	学習活動	教材・教具
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 始まりの挨拶をする。 ○ 前回の復習 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回内容(電話ではなそう1)で学んだことについて復習をする。 ○ 本時の目標・内容を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末 ・TV
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 電話の決まった言い方を学ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・ あいさつ、自分の名前、用件、電話を切る挨拶 など ・ 丁寧な言葉遣いを意識するようにする。 ○ 電話をかけてみよう。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 学んだことを意識し、タブレット端末に話すことをまとめる。 ・ 内線を使って、こども療育センターに電話をし、学んだことの実践を行う。 ○ 動画で振り返ろう <ul style="list-style-type: none"> ・ 電話をしている動画を見て、目標の振り返りを行う。 	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・ 電話の決まった言い方、電話で話す際に気をつけることを確認する。 ○ 終わりのあいさつをする。 	

Check⑦

授業者を含むグループ職員の評価

<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学級以外の職員の意見を取り入れることで、通常行う授業とは違う視点からアプローチできたり、授業を展開できたりした。 ○ 生徒自身が授業の中で臨機応変に対応する姿を見ることができ、生徒の成長を感じると共に、これまで見せることのなかった一面を見ることができた。 ○ 授業内容が生徒の苦手な分野にもかかわらず、頑張って課題に取り組む姿が見られ成長を感じた。 ○ TPO に応じた話し方が単元を通して身につけていることが分かった。 ○ ICT の活用について、生徒だけでなく職員のためにも広げていける内容であった。
--

【課題】

- 電話の持ち方、かけ方、置き方、話し方（滑舌）、口の動かし方など、自立活動の時間に取り組むべき内容が見えてきた。自立活動の時間の指導の中で中心課題にアプローチしつつ、作業学習や教科の授業等の中で発展的な内容を展開し、課題の定着を図っていく必要がある。
- 生徒の話し方（滑舌が悪い、話すスピードが速い、声が小さい）について、慣れている職員は補正して聞き取ってしまうが、聞き慣れない人にとってはそれが難しい。そのため初めての相手や顔の見えない相手に対しても、話していることを理解してもらうように、「ゆっくり、滑舌よく、丁寧に」話しをしていく必要性を感じた。
- 実態の幅が大きいクラスでの一斉授業の展開方法や他の学級との連携について模索していく必要がある。

Action⑧

☆ 次年度の個別の指導計画、年間指導計画に活用しましょう。

【参考】長崎県立諫早特別支援学校 H29年度研究報告書

PDCA サイクルシート(国語編)

学部学年 (高等部2年)

Plan①

学習指導要領	
【対象児童生徒の現在の実態】 (小学部 1段階) (1) 言葉のもつ音やリズムに触れたり(○)、言葉が表す事物やイメージに触れたりすること(○●)。 (2) 教師の話や読み聞かせに応じ、音声を模倣したり(△)、表情(○)や身振り(○●)、簡単な話し言葉など(△)で表現したりする。 (3) 身近な人からの話し掛けに注目したり(○)、応じて答えたりする(△●)。 (4) 身近な人との関わりや出来事について、伝えたいことを思い浮かべたり(△)、選んだりする(△)。 (5) 教師と一緒に絵本などを見て、示された身近な事物や生き物などに気付き(○●)、注目する(○)。 →【目指す段階】 (小学部 1段階)	
S スケール(学習到達度チェックリスト)	
【現在の实態】	【目指すスコア】
○聞くこと スコア (8)	○聞くこと スコア (12)
○話すこと スコア (8)	○話すこと スコア (12)
○書くこと スコア (4)	○書くこと スコア (4)
○読むこと スコア (8)	○読むこと スコア (12)
学びの履歴	
昨年度国語の学習では、年間を通して絵本の読み聞かせを行った。「聞くこと」については、「オレ・ダレ」という本では、真っ黒な動物に興味をもち、絵本の方を注視して話の内容をじっと聞くことができた。「話すこと」に関しては、時折絵本の中に出てくる簡単な台詞を言うように促すが、単語を発音することは難しい。「読むこと」に関しては、関心のあるページの挿絵に興味をもち、視覚的な要素を楽しむことができる。「書くこと」の書字については取り扱っていない。	

Plan②

対象児童生徒の国語の目標

- 言葉のもつ音やリズムに触れたり、言葉が表す事物やイメージに触れたりすることができる。【知識及び技能】
- 身近な人からの話し掛けに注目したり、応じて答えたりすることができる。【思考力・判断力・表現力等】
- 絵本の読み聞かせを通して、教師とコミュニケーションを楽しむことができる。【学びに向かう力、人間性等】

Plan③

対象児童生徒の本時の目標

- 季節や絵本の言葉に触れ、リズムやオノマトペを楽しみながら、場面のイメージを膨らませることができる。
- 次を期待したり、見通したりしながら学習に取り組むことができる。
- 教師とのやりとりの中で、自分の気持ちを声や手の動きで表現することができる。

Plan④→Check⑥

本時の対象児童生徒の評価

◎…よくできた ○…できた △…できなかった

・ 教師の読み聞かせに注目したり、提示した物を目で追ったりすることができる。	◎
・ 2つの物やカードを見比べ、選んだ方をアイコンタクトで教師に伝えることができる。	◎
・ 教師の「朗読を担当したい人」の問いかけに、声を出して応えることができる。	○

Do⑤

○ 単元（題材）名 「詩の世界を楽しもう」

時間	学習活動	教材・教具
導入	○ はじまりの挨拶をする。 ○ 学習の流れを確認する。 ① 読み聞かせ 『くんくん いいにおい』『ええやん そのままで』 ② 詩の朗読	
展開	(1) 読み聞かせ ・ 2冊の本を確認し、順番を決める。(声を出す、手を挙げる) ・ 読み聞かせを聞く。(絵本に注目する) ・ 絵本の世界を体験する。(実物に触れたり、匂いを嗅いだりする) (2) 詩の朗読 ① 担当を決める。(声を出す、手を挙げる) ② 朗読の声を選択する。(声を出す、視線を向ける) ③ 詩の世界を楽しむ。(スイッチ操作)	・ 本(2冊) ・ ゆず ・ りんご ・ 顔写真カード ・ TV ・ タブレット端末 ~Key note
まとめ	○ 活動のふり返りをする。 ○ おわりの挨拶をする。	

Check⑦

授業者を含むグループ職員の評価

<p>【成果】</p> <p>○ 活動の流れを理解し、次を期待しながら活動に参加することができた。声を出したり、スイッチを操作したりする場面が分かり、自分から動くことができた。</p> <p>○ 学級以外の教師に教材作成で協力してもらうことができた。生徒が映像や声にとっても興味を示し、それぞれがお気に入りを見つけ、卒業後の余暇活動につなげることができたのではないかと思う。</p> <p>【課題】</p> <p>● 選択場面をより確かなものにするために、内言語を明らかにし、選択方法を検討していけるとよい。</p>
--

Action⑧

☆ 次年度の個別の指導計画、年間指導計画に活用しましょう。

【参考】長崎県立諫早特別支援学校 H29年度研究報告書

PDCA サイクルシート(算数(数学)編)

学部学年(高等部2年)

Plan①

学習指導要領	
<p>【対象児童生徒の現在の実態】</p> <p>(小学部 2段階)</p> <p>(1) 10までの数の概念や表し方について理解し(○)、繰り上がりのない簡単な計算ができる(○)。</p> <p>(2) 数のまとまりに着目し(○)、数の数え方や数の大きさの比べ方、表し方について考え、学習や生活で生かすことができる(△)。</p> <p>(3) 身の回りのものや身近な出来事のつながりに関心を持ち(○)それを表やグラフで表したり(△)読み取ったりする(△)。</p>	<p>・学習指導要領の算数(数学)の各内容の指導事項を参考に、対象児童生徒の達成状況を「◎=よくできる、○=できる、△=むずかしい」でチェック。細かく実態把握を行う。</p> <p>・目指す段階も記入する。</p>
→ 【目指す段階】 (小学部 3段階)	

S スケール(学習到達度チェックリスト)	
【現在の実態】	【目指すスコア】

・必要に応じて、S スケールで実態把握。

・学習指導要領で実態把握が可能な場合は未記入でOK。

学びの履歴
<p>昨年度の数学の授業では、同じ数のまとまりで数えるために具体物を使って、2こ、5このまとまりで数える学習に取り組んできた。計算機を使った学習では、3桁、4桁の加法減法を行ってきたが、今年度は、計算機を使った具体的な生活場面における簡単な計算に取り組んできた。計算をタブレット端末の電卓アプリを使い、「+」や「÷」、「=」などの記号を正確に指でタップして、平均体温やカロリーの合計を計算することができた。また、乗法九九は2の段、5の段を暗記しているが、乗法の性質の理解や活用には至っておらず、日常生活の中で生かすことは難しい。加えて、ゲームの得点や天気予報などの表の読み取りはできるが、グラフの表し方や読み取りに関する学習はほとんど行っていない。</p>

Plan②

対象児童生徒の算数(数学)の目標

○ 同じ数のまとまりで数える方法や、乗法の意味を知ることにより、日常生活の計算を円滑に行うことができる。

【知識・技能】

○ 身の回りにある数量をグラフに表したり、読み取ったりすることができる。【思考・判断・表現】

○ ものの数え方やグラフに関心を持ち、日常生活に生かそうとする。【学びに向かう力、人間性等】

Plan③

本時の目標

○ せいりゅう祭で販売する商品の予想売り上げ個数を、5ずつのまとまりで数えることができる。【知識・技能】

○ 5ずつのまとまりで数えたアンケート結果をグラフに表すことができる。【思考・判断・表現】

○ 作成したグラフを読み取り、予想売上個数の多少を比べることができる。【学びに向かう力、人間性等】

Plan④→Check⑥

本時の対象児童生徒の評価

◎…よくできた ○…できた △…できなかった

・ せいりゅう祭で販売する商品の予想売り上げ個数を、5ずつのまとまりで数えることができたか。 【知識・技能】	◎
・ 5ずつのまとまりで数えたアンケート結果をグラフに表すことができたか。【思考・判断・表現】	○
・ 作成したグラフを読み取り、予想売上個数の多少を比べることができたか。【主体的に学習に取り組む態度】	◎

Do⑤

○ 単元(題材)名 「せいりゅう祭で販売する商品の(予想売上個数)を数えて、グラフにまとめよう」

時間	学習活動	教材・教具
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 始まりの挨拶をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の始まりを意識できるように、生徒の様子に応じて姿勢を正すよう言葉掛けをする。 ○ 前時の振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の内容を思い出す。 ・ 何についての調査をしたのかを確認する。 ○ 本時の活動を知る。 「せいりゅう祭で販売する商品の予想売り上げ個数を数えて、まとめよう。」 <ul style="list-style-type: none"> ① 予想売り上げ個数を数える。 ② 予想売上個数を棒グラフに表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ タブレット端末 ・ テレビ ・ 模擬の販売商品 ・ 投票箱
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 予想売り上げ個数を数える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ どのように数えると良いか、考える。 ○ それぞれの答え(個数)を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ホワイトボードに、生徒が考えた乗法九九の式やその他の数え方について板書し、お互いの考えを共有できるようにする。 ○ 予想売り上げ個数を、棒グラフで表す。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬の販売商品を模造紙に貼り、棒グラフを作成する。 ・ 自分の求めた個数と実際の個数が同じかどうかを確認する。 ○ 全員の作成したグラフから、予想売り上げ個数の多少を比べ発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 多少を比べることができるように、予想売り上げ個数が「1番多い商品」と「1番少ない商品」がどれかを問いかける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 模擬の販売商品 ・ 投票箱 ・ ホワイトボード ・ 模擬の販売商品 ・ 投票箱 ・ 模造紙(作成したグラフ)
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習のまとめをする。 ○ 次時の予告をする。 ○ 終わりの挨拶をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 箱 ・ 模造紙(作成したグラフ)

Check⑦

授業者を含むグループ職員の評価

<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 5ずつのまとまりが5の段であることを理解し、効率よく数えることができた。日常生活の中でも、2や5のまとまりで数えようとする場面が増えた。 ○ 身近なせいりゅう祭の販売商品を取り扱うことで、数学への苦手意識が減り、意欲的に取り組むことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 模造紙に具体物を貼り付けて棒グラフに表したが、うまく貼りつかず、比較するには見にくいものになってしまった。 ● 友達と話し合いや相談する時間を設けることで、もっと自信をもって取り組むことができたのではないかな。

Action⑧

☆ 次年度の個別の指導計画、年間指導計画に活用しましょう。

【参考】長崎県立諫早特別支援学校 H29年度研究報告書

PDCA サイクルシート(算数(数学)編)

学部学年 (高等部1年)

Plan①

学習指導要領			
<p>【対象児童生徒の現在の実態】</p> <p>(小学部 1段階)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色、位置が変わっても、数は変わらないことについて気付くこと。(△) ・3までの範囲で具体物を取る。(○) ・具体的に注目して指を指したり、つかもうとしたり、目で追ったりすること。(○) ・形が同じものを選ぶこと。(○) ・大きさや長さなどを、基準に対して同じか違うかによって区別すること。(△) <p style="text-align: right;">→ 【目指す段階】 (小学部 1段階)</p>			
S スケール(学習到達度チェックリスト)			
【現在の実態】		【目指すスコア】	
○ 数と計算	スコア(48)	○ 数と計算	スコア(60)
○ 量と測定	スコア(48)	○ 量と測定	スコア(60)
○ 図形	スコア(36)	○ 図形	スコア(48)
学びの履歴			
<p>・数と計算についてはサイコロの目を見て、数字カードを選んだり、ボールを使った数を数えることなどを学習してきた。数の概念(具体物の個数の理解)は5までの数の理解はしっかりできている。数の順番も数字カードで学習している。20まで正答できる。また日付をタブレット端末で答えることができる。</p> <p>・量と測定については2つのボールの量を見比べて「多い」方を選択するなどの学習をしてきた。小学部では間違えてもボールを数え直すことで教師と一緒に確認することができている。中学部では多少についてはよく理解ができるようになってきている。</p> <p>・図形については小学部では絵カードのマッチング、様々な種類の木製パズルはめで学習してきている。中学部ではテレビに出ている形を見て、同じ形をタブレット端末で選んでタッチする学習に取り組んでいる。他には金種についてもカードで学習し種類分けができている。形についてはよく理解できている。</p>			

Plan②

対象児童生徒の算数(数学)の目標

- 【知識及び技能】 ……提示された二つの物から長い方を選択することができる。
- 【思考力・判断力・表現力等】… 身近なものの長さを教師と共に測定し、その違いに気付く。
- 【学びに向かう力、人間性等】… 身に周りの様々な物の長さに関心を持って学習に取り組む。

Plan③

本時の目標

- それぞれ投げた物の長さに注目し、どちらが長いかがわかる。
- 測定した物を長い順番に並べ、その順番に気付く。
- 自分や友達が転がした物に着目し、できるだけ遠くに転がそうとする。

Plan④→Check⑥

本時の対象児童生徒の評価

◎…よくできた ○…できた △…できなかった

・【知識・技能】身の回りにあるものの形の違いなどに気づくことができる。	◎
・【思考・判断・表現】身の回りにあるものの量の大きさや長さなどを教師と一緒に比較することができる。	○
・【主体的に学習に取り組む態度】数量や図形に気付き、学習に関心をもって取り組むことができる。	◎

Do⑤

○ 単元（題材）名 「どこまでころがるかな？」

時間	学習活動	教材・教具
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の振り返り。 <ul style="list-style-type: none"> ・前時の内容を教師と一緒に写真や映像で振り返る。 ・どのような内容を授業でしたのかを教師が説明する。 ○ 本時の活動を知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業において、秋の具体物（どんぐりや松ぼっくりなど）に触れたり、その具体物を使ってどこまで転がるのかの距離を測ったりすることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末 ・テレビ ・ホワイトボード
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○ 秋の具体物に触れる。 <ul style="list-style-type: none"> ・秋の具体物（どんぐりや松ぼっくりなど）に触れて、かたちの違いを感じる。 ○ 秋の具体物を教師と一緒に傾斜台から転がして、紙テープで測定する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の気に入った具体物を教師と一緒に傾斜台から転がす。 ・具体物が転がった距離を教師と一緒に紙テープで測る。 ○ 距離を測った紙テープを比較する。 <ul style="list-style-type: none"> ・距離を測った2つの紙テープを提示して、生徒が長い方を選択する活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末 ・テレビ ・ホワイトボード ・秋の具体物 ・傾斜台 ・紙テープ
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の振り返りをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・本時の写真や動画を見ながら、本時の目標が達成できたかの確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末 ・テレビ ・ホワイトボード

Check⑦

授業者を含むグループ職員の評価

<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 身近な具体物を使ったことで、生徒が取り組みやすかった。 ○ 2択の選択をする際に、生徒が視覚的に見やすくなったことによって選択がしやすかったと考える。 ○ 具体物を転がす際にモニターともつなげたことによって、視覚的に見やすく興味を持って学習に取り組むことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 操作的な活動を随所に取り入れるともっとよかったか。 (2人いっぺんに転がして長さを競わせることもよいかもしれない。) ● 他の学習とからめて、長さを測る経験をさらに今後も積むことで力をよりつけられるのでは。

Action⑧

☆ 次年度の個別の指導計画、年間指導計画に活用しましょう。

【参考】長崎県立諫早特別支援学校 H29年度研究報告書

